

# 症例報告

## 多彩な身体症状と就労困難を訴えた男性に対する自分描画法の適用

*On the application of Self-Portrait Method for a man who complained of various physical symptoms and working difficulty.*

小山 充道<sup>1)</sup>  
Mitsuto Koyama

Key Words: 自分描画法, 心理査定, 思い, 家族関係

### はじめに

近年、保健・福祉・臨床心理領域のみならず、医療領域においても“患者の声をより正確に聴き取る”ということが研究テーマになってきている。がん医療におけるコミュニケーションプロトコール (SHARE) (内富ら; 2007) の開発はその一例であるが、診断を下すための半構造化面接手順を示した精神科診断面接マニュアル (SCID) は、面接における留意点を具体的に指摘している。たとえば「面接者は被検者個人に心理学的な興味を示す。信頼を得るには被検者の話す内容に強い共感と興味をもつ」「面接者には社会人としての言葉づかいが求められる。敬語、謙譲語の基礎は習得しなければならない」「被検者の話をおうむ返しに確認してはならない。被検者の発言が不明瞭なので、面接者が確認している印象を被検者に与えかねないからである。被検者の発言が不明瞭ならば、その場でわかるまで聴く」「被検者が置かれている文化を理解し、共感と感情移入を行い、被検者の精神内界を了解する」等と記され、患者の声を聴き取るための筋道が示されている。これらは医療領域におけるコミュニケーション技術の向上を目的としている。患者は何を求めているのか、治療者は何を聴いているのか、より正確な情報を獲得するためには患者に関わる医療者すべてが、患者の声に耳を澄まさなければならない。病状は関係の中で変化し、いかようにでも展開を見せる。本事例は医学的、心理的、社会的なものが絡み錯雑とした要因を含む事例であるが、患者のありのままの声をよく反映しているように思われる。

### ケースの概要

症 例: M さん (以下、M と略称)、42 歳、男性、独身。借家にて単身住まい。

診断名: 高尿酸血症。ガウトマロン錠 50mg (1 日 2 回朝夕食後)、ウタゲン-U (1 日 3 回毎食後) そして不眠症に対してロヒプノール錠 1 (1 日 1 回就寝前) が処方された。

現病歴: I 年 4 月、心筋梗塞および肺炎にて約 2 ヶ月間 A 病院に入院。その後も身体状態がすぐれず、退職・就職を繰り返した。I + 8 年後の 4 月、ヘルニア、痔で肛門科、蓄膿症で耳鼻科受診。その後、尿酸値が高く、痛風疑いにて B 病院内科を受診した。臨床心理士として筆者が勤務していた B 病院には臨床心理室があり、心理療法が必要な際は内科治療と抱き合わせで面接を実施することになっている。本症例は多種多病かつ不定愁訴が前景に現れ、その背景には心理的なものがありそうとの主治医の判断により、内科治療と心理療法を同時に実施することになった症例である。面接と査定を筆者が担当した。総面接回数は 15 回、面接期間は約 10 ヶ月であった。面接目的は「思いこみ (混み)」があり、今ある「思い」を整え、M の中に戻すことにあった。面接では、エビデンスを得る目的で心理査定を実施した。

### 心理療法過程

以下に略述する。

〔1 回目面接: I 年 4 月 27 日 (以下、I / 4 / 27 と略す)〕

会ったときから「親子関係が断絶状態にあり、これを修復したいが自分にはできない。苦しい…」と胸の内を打ち明ける。話を要約すると、「暴力的な父親の影響で幼少時から自分はマインドコントロールされ反抗期を逃した。そして家族との関係が破綻した」という内容であった。依存欲求

が強く、理解者を求めているように感じた。  
査定では、欲求、反応および結末予想をみる目的で集団 TAT を実施した。その結果、所属感のなさ、攻撃性の低さ、淡い幸福感を抱いている等のことがわかった（表 1）。

#### 〔2回目面接：5/11〕

自分は祖父や母親から口減らしの対象とされ、他人の家に出され、幼少時から苦勞が耐えなかったという。父に対して「怖い」というイメージを持っている。「冬場、窓開けて、雪の中に放り投げられた体験がトラウマになっている」と身体を震わす。「父親はストレス解消ができない人。趣味も少ない。歌を歌うような人ではない」と教えてくれた。その父親が昨年末、脳血管障害で倒れた。査定では、全般的な人格特徴をみる目的でバウムテストを実施した。柿の木を描いた（図 4）。「取って食べたい柿の木だ」と説明した。絵からは幸福を求める気持ちと同時に幼児性も感じ取れた。

#### 〔3回目面接：5/25〕

「実は両親の老後の世話を求められている。しかし自分の力では負えないし、負いたくもない」という。「それが言えないで苦しい」と言い、さらに「これだけ私を傷つけた親なんだから、面倒を見なくていいよね」と同意を求める。「まだ小さい頃の心の傷が癒えていないんですね」と声をかけると「そのとおりです。この年になって恥ずかしいですね」と声を大きくした。「姉弟に任せたい」ともいう。退室時、「私はアダルトチルドレンですか？」と尋ねた。「どういうことでしょう…？」と尋ねると「私は未成熟な人間ですよね」という意味であった。

査定は心身に関する自覚度をみる目的で CMI を実施した。その結果、身体的にも精神的にも自覚度は低く、健康値を示した。しかし心身に関する状況は決して健康とは思えず、問診に対する答えの信憑性には自ずと限界があることがわかった。

#### 〔4回目面接：6/8〕

「両親とのコミュニケーションを良くしたい」と話す。父親は偽善者で、障害のある母親は障害を見せつけ、従わせる人だという負のイメージから抜け出せないでいる。親の扶養は「義務感が 50%」と説明した。「愛情が欲しい」「私は精神年齢が低い」と自己評価が極端に低い。

査定は顕在性不安感情を探る目的で MAS を実施した。その結果、A スコアは 9 で、不安感情のなさが顕著であった。実際は不安感情に彩られながらも、質疑に応える限りにおいては「不安はな

い」と言う。目の前で不安感を示しているのに、応答結果は「不安なし」。その狭間にどのような心理的要因が介在しているのかにふれることが重要だと考えられた。

#### 〔5回目面接：6/22〕

親から「身体を良くして、再度働きなさい」というメッセージが届いたという。両親を介護する動機について、（恩返し？）と尋ねると「綺麗ごと過ぎる」と答える。（義務感？）「固くなり過ぎる」、（絆？）「ない」、（博愛？）「宗教的だなあ」と、どれもびったりこないと話す。（話せるお母さんが欲しい？）「伴侶が欲しい…相談できる」と打ち明けた。

査定では、全体的な性格特徴を探る目的で YG を実施した。結果は AD 型で、目立った性格特徴は見出せない。「そのとおりに出ていますね。2～3 年前は今以上に悩んで情緒不安定だったけど、いろいろな相談機関に行って、自分以上に苦しんでいる人がいることを知ってから少し変わりました」と話した。

#### 〔6回目面接：7/6〕

面接時間に 10 分遅れたことを気にしている。環境が整わないと、すぐに心が揺れてしまう。自由連想を行うと、「赤→目の前が真っ赤→停留所→風が吹く木陰→バスを待っている自分→周囲の人がちよろちよろ自分を見る→周りのマンションに住む人が自分を見る→若い女性が道路を歩きながら自分を見ている→すれ違いざまに挨拶する（どんな顔をしているのですか？）少し真顔で少し笑顔→周囲を見渡してようやく帰宅（どんな感じ？）一汗かいて気分がいい」と展開した。おそるおそる周囲とふれ合っている様子が窺われる。M にとっては日常生活をどのように送るかが課題なのだろう。

査定は記銘能力を確かめる目的で東大式記銘検査を実施した。その結果、有関係対語試験結果は普通水準の記銘力保持を示したが、無関係対語試験になると途端に混乱が生じた。正答が 1～2 問だったことから、多くの事を一度に伝えるよりも、一つの事をゆっくり正確に伝えたほうが理解しやすいことがわかった。

#### 〔7回目面接：7/13〕

今はヘルニア治療として通院リハビリ、気分転換にウォーキング、心を整える作業として面接が日課になっている。

ときどき自室の天井に顔を向けて「（自分に対して）アホ、間抜け」と叫んでいるという。それで

もなかなか賢くならないと嘆く。祖父で苦勞させられた父、その父親に苦勞させられている自分、不幸は世代に受け継がれるという。

査定は自我構造を探る目的で TEG を実施した。自分の幸福を強く意識することを示唆するプロフィールを見ながら、次のように素直に話す。「両親に言いたいことがあるが、半分無駄かなという思いがある。しかし半分は前向きな気持ちになってきた。それでも自分や他人を傷つけることがひどく怖い。自分の損得を考えると、いい顔をしていたいし嫌われたくない。ずるい、汚いと思うこともある」と。

#### 〔8回目面接：8/3〕

3ヶ月前に関係を繋ぐために送った姉への誕生日プレゼントに対して、昨日礼の電話があったという。Mは3ヶ月遅れの返礼に抗議する。一方、姉と話ができたことには素直に喜ぶ。その電話で、姉は父親に対して複雑な思いを持っていたことを吐露した。Mは孤独感から少し放たれたと感じた。バウムテストに変化があるかどうかをみるために、再度実施した。描いた木の絵を見て、「普通は丘の上に柿の木はならないが、気持ちはいい。柿は重みで垂れ下がるし、渋柿だったら…」と、内心不安があることを伝えた（図5）。

#### 〔9回目面接：8/31〕

「話すうちに両親や姉の心が少しずつわかるようになってきた」といい、「自分は小心者だということに気づいた」と言う。「先手を打ってサービスをするのは粉飾ですよ」と同意を求める。（サービスが取引になっているってこと？）と応じると、「自衛策ですよ」と自己分析した。

顕在性不安感情の変化をみるために、2回目のMASを実施した。第1回目の結果は不安感のなさが目立ったが、今回は妥当な不安感情が認められるようになってきた。

#### 〔10回目面接：9/28〕

「面接に来てから、いろんなことが良い方向に進んでいる」と言う。「ここで話す」ことが心理的回復に役立っているようだ。8月末に父親の誕生日に手紙を送った。父親から返礼の電話があり、「たまには遊びに来い」と言われた。敬老の日には母親に手紙を送った。返礼の電話があり、「見舞いに来なかったことを非難されたが、最後に体重増加に気をつけるとアドバイスされた」と嬉しそうに言う。今の目標は「両親を怖くないと思う気持ちをつくりたい」であった。

査定では欲求・反応・結末予測の変化をみるた

めに2回目の集団TATを実施した。その結果、夢見ごこちの幸福感が現実的な幸福のありように変化し、“不幸”が全面に押出された。しかし面接体験からは「こんな自分でも社会的承認が得られる」という実感を持てるようになってきたという。

#### 〔11回目面接：10/19〕

「自己主張なんてずっとなかったのに、最近言えるようになってきました。ここでたくさん主張しているからでしょうね」と、面接の場が自己主張するための練習の場となっていると言う。双方苦笑。先日町内会主催のハイキングに参加し、同年輩の人と話す機会をもったこと、年末年始は思い切って両親のいる実家で過ごそうかと思っていることなどを話した。

査定では心身に対する自覚度の変化をみるために、2回目のCMIを実施した。その結果は前回同様心身に対する自覚度は低かったが、「疾病頻度」のみが55%程度ではあるが自覚されるようになってきた。

これまで主に簡便さ故質問紙法の心理査定を用いてきたが、Mの心をよく反映しているとはいいたい印象を筆者は持った。Mは描画好きと聴いていたこともあり、ここで自分描画法（小山；2005）を導入した。第1回自分描画法結果は次のとおり（図1）。

第1段階：自己像→「心筋梗塞、不整脈してから連鎖的に今まで弱い部分が全部出た。左膝軟骨が飛び出てる、左足、鈍痛がある、腎臓は透析の一手手前まできている、腰がヘルニア、左背中ヘルペス、鼻は蓄膿症気味、頭は時に頭痛がある、不眠症で夜睡眠薬もらっている、尻は痔で痛い」と顔をしかめながら、多彩な身体の病気を抱えている自分を描いた。

第2段階：気になるもの→「母親（左下方）はもともと小柄で足が悪い。年取ってますます小さくなってると思う」という。

第3段階：背景→「芝生の上には緑、土も多少ある。茶色がそう。空は青空でしょう。ときたま雲がある。白いところがそう」と説明する。

第4段階：隠れているもの→「親兄弟でしょうね」と言いながら、一番下に家族の姿を描く。

第5段階：題名→「家族」

第6段階：物語→「ある日晴れた日、親兄弟で家庭菜園をやっている風景ですね。家庭菜園で母と一緒に手伝いやっている。喜んでいる姿がある。多少は満足げな顔。幸せまでいかないが…ガーデニング、できたら近い将来やってみたい。親兄弟

とは不平不満ありますけど、互いに胸襟ひらいて、誤解、偏見をとって話せるようになりたい」描いて「少しすっきりした」という。

#### 〔第12回面接：11/9〕

体重が増加した。両親との関係では、今まで「帰って来いといってくるまで待っていた」のが、この頃は「自分からこの日に帰りたいという気持ちが出てきた」という。第2回自分描画法を実施。その結果は次のとおり（図2）。

第1段階：自己像→「顔が自己主張している。自分にちょっと自信がわいてきた。手は控えめ。遠慮がち。手が出ない。身体全体が大きくて、ちょっと自分が出せる感じ」

第2段階：気になるもの→「シマネコが好き。台の上にいる。これ私。別の街に住んでいたとき、野良猫が私になつた。肩の上に上がったり、舐めたり動いて、飼うのがおもしろくなった」

第3段階：背景→「芝生。大地に根を張りたい。空はすがすがしい。気分爽快。山はどっしり。やっぱり環境って大切ですね。花は美しい。きれい。でも今は根無し草…」

第4段階：隠れているもの→「対人関係。自分のルーツ！」とはっきり言う。

第5段階：題名→「手が出せない」

第6段階：物語→「私はちょっと控えめにしているが、本意ではない。外は気持ちよく晴れているのに私の心はまだ根無し草。自分の都合で、ノーと言える勇気が欲しい。ちょっと力がついて表情は明るい。しかし、まだ何が起るかわからない…」

人格構造の変化をみるために2回目 TEG を実施した。その結果、前回の極端なマイホーム思慕のプロフィールから、少し自己主張が感じられる平凡なプロフィールへと変化した。Mはゆっくりと何かに取り組むための勇気を蓄えつつあるという印象をもった。

#### 〔第13回面接：12/7〕

大家さんが半強制的に部屋の掃除を指示した。「整理すると気分がとても良くなった。今も整理整頓するようにしている」と話した。年末、実家で過ごす計画に関して、「場合によっては無理かもしれない」という。「痔が悪化したから」が理由。その場合でも「自分から行けないと言う。行ける場合は、いつ行くか言うつもり」と言い、決して主体性が揺らいだのではないと伝える。「でも私の言っていることは理想ですね。綺麗ごとですね」と現実はなかなか思うように展開しない、と

いう見通しがあることを伝えた。面接の終結にふれ、3月末くらいをめどにとの話が出た。

全体的な性格特徴をみるために、2回目 YG を実施した。その結果はA”型で、1回目結果と大差はなかった。

第3回自分描画法結果は次のとおりである（図3）。第1段階：自己像→「用紙に向かって右端一番上で温泉につかっている人。ちょっと遠慮がちしている」

第2段階：気になるもの→「私の手前でお湯につかっている父母」

第3段階：背景→「お風呂」

第4段階：隠れているもの→「一番下に赤いクレヨンで、コミュニケーション不足と記す」

第5段階：題名→「コミュニケーション不足」

第6段階：物語→「私は真中にいます。家族で温泉につかっている。皆で温泉に入ればいいなと思う。でも私の言っていることは理想ですね。願いですが、コミュニケーションがとれればすっきりするんですが…」（お風呂に入りながら、何を話しているんですか？）「いい湯だなって歌を歌っているんですよ」（お父さんは？）「6年前に背中を流したことがありますね。実家に帰ったとき、めずらしく喜んでくれました」（お母さんは？）「今、思いつかない」（他にどんなことを思いますか？）「皆と一緒にいて、皆がコミュニケーションで困っている。不平不満が爆発する可能性もあります。山は死火山で、この温泉は海辺のホテル・・・実際はホテルなんか、泊まったことがないのに…」

因みに温泉入浴者の左上端は弟、その右に義兄、その2人の手前に姉がつかっている。右側両親の手前には2人の姪がつかっている。

#### 〔第14回面接：11/11〕

年末に大腸炎になり、帰省をキャンセルしたという。「自分の意志で母親に電話した」と報告。その結果、「15分も母親と話せた」と満足げ。電話で、気丈な母親が「週に2回、デイケアサービスを受けていると聞いて、それはいいことだと返事した」と誇らしげに話す。母親のイメージは「上等な人だと思えるようになった」、父親は「傷つける人」から「傷つけられやすい人」とイメージが変化した。残る課題は「姉との和解」だという。

査定ではバウムテストの変化をみるために、3回目を実施した。木は小ぶりだがそれなりに整っていて、実をつけつつある様子が窺われた（図6）。

#### 〔第15回面接：2/1 終結〕

母親は高齢者で、「近い将来特養でも入るのだ



ろうか？」とこの先を案じている。また「外向き  
に行動している姿を見てホッとする」とも言う。  
面接で「自分が変わったと自覚できる」こと、「よく  
見られようと思うのをやめた」こと、「嫌われ者  
でもいい。敵役でもいい。今はそうですか、と言  
える」と、はっきり言う。

バウムテストの変化をみるために4回目を実施  
した。実のなる木を自発的に描いた(図7)。覚悟  
を決めて山を自転車で登っていく。山頂には嫌わ

れ者のカラスが止まっている木がある。しかし白  
黒のイメージしかない」という。水路が開かれ、  
推進力と道具が手に入った。ここで面接は終了と  
なった。

表1 実施した質問紙法の心理検査結果

心理検査		1回目実施		2回目実施		3回目実施		4回目実施
集団TAT (欲求・反応・結末 予想)	1	所属・攻撃(以上-2), 幸 福(+2), 社会領域のみ- 2.	10	所属・攻撃・不幸(以上- 2), 社会的承認(+2), 全領域共0か+1		-		-
バウムテスト (人格特徴)	1	丘の上に実が離れてなる 柿木	8	丘の上の柿木が, きゅつと 締まってきた.	14	幹が 太い	15	山登りの 絵
CMI (心身に関する 自覚度)	3	領域Ⅱ(身体的自覚症22, 精神的自覚症2, 全項目 30%以下)	11	領域Ⅰ(身体的自覚症21, 精神的自覚症0, 疾病頻度 のみ55%の自覚度, 他は全 項目25%以下.		-		-
MAS (不安をどの程度 意識しているか)	4	?=0, L=4, A=9点. 不 安感情のなさが顕著.	9	?=0, L=4, A=16点. 妥当な不安感情に近づく.		-		-
YG (性格特徴)	5	AD型(非攻撃性, 思考的 内向傾向)	13	A"型. 非攻撃性と思考的 内向傾向)		-		-
TEG (自我構造)	7	CP=0, NP=20, A=20, FC=18, AC=8, D=20, Q=0 台形型 で, 自分の幸福を強く意識 するマイホームタイプ.	12	CP=9, NP=15, A=18, FC=18, AC=12, D=17, Q=28 現 実を受け入れかつ自己主 張する台形型に近い.		-		-
東大式記銘検査 (記銘能力)	6	無関係対語, 3試行目で全 問正解. 無関係対語は1回 目1問正解, 2, 3回目は 2問正解.		不要.		-		-

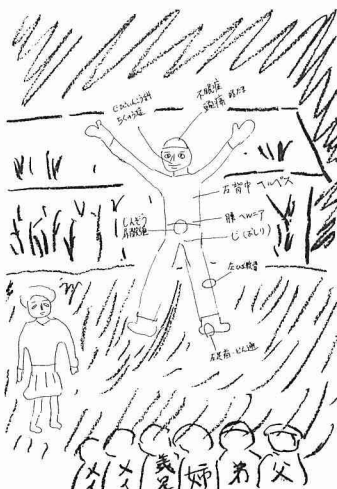


図1 第1回目自分描画法



図2 第2回目自分描画法

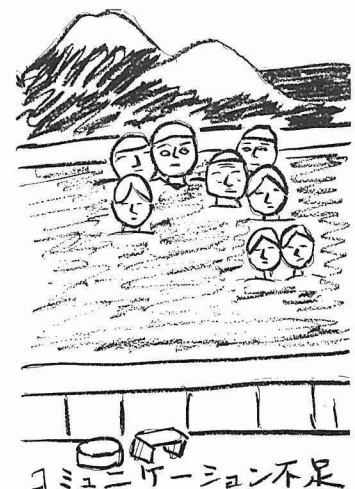


図3 第3回目自分描画法

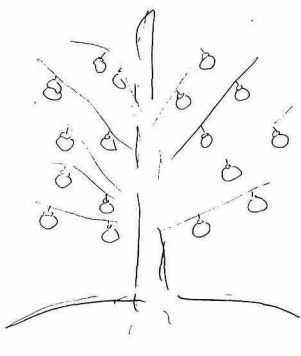


図4 第1回目バウムテスト

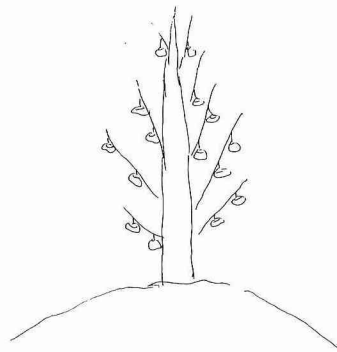


図5 第2回目バウムテスト

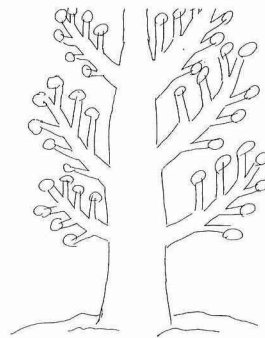


図6 第3回目バウムテスト

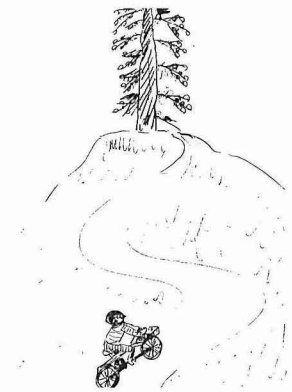


図7 第4回目バウムテスト

## 考 察

### 1. 自分描画法について

質問紙法を用いた心理査定は簡便ではあるが意図的な操作を挿入できる場合があるために、その結果に全面的に頼ることは慎重でなければならない。本症例は趣味が描画であることから、描画を用いて人の思いにふれることができる自分描画法 (Self-Portrait Method :以下, SPMと略す)を導入することにした。SPMは小山 (2005) によって創案され、小山 (2008) によってその概要が整えられた。その目的は次の3点にある。

- ① SPMは心理療法の中で、見えにくい心の部分である“思い”を浮かき上がらせる道具として用いられる。
- ② 描画内容 (“思い”の部分) と物語構成 (“思い”の全体) から、“思い”を重視した対話を行なう手がかりが得られる。この場合、“思い”は何か押し上げられ出現するものととらえられる。
- ③ SPMで発達水準および病的水準の把握がある程度可能となる。疑いある場合は、他の心理アセスメントを適宜追加実施し、発達水準および病的水準に関する信頼性を高めていく。自分描画法は発達水準および病的水準に関する情報の一端を与えてくれる。実際は患者が抱えている“今の思い”を浮かび上げさせ、その思いにふれ、つかみ、収める過程を心理療法過程としてとらえていく。“思い”を重視する観点から無意識的なものにふれながら、人間主義的・実存的アプローチからこころに接近していく。患者自身が、自分自身との、あるいは他者との対話力を高めることを第一目的とする。“思い”が表現された描画を対話素材として用い、患者自身が“今の思い”にふれる。治療者は感じ取った心理的内容を伝え返し、患者から次の応答をもらう。これを繰り返しながら、患者

の“今の思い”をつかんでいく。ある思いに苦しむ患者が自ら“ある思い”にふれ、それをつかみ、最後に収める過程は、対話力の向上プロセスと同期する。SPMは描画法として用いるだけでなく、面接における患者の“思い”を深めるためのひとつの道具として用いられることを想定している (小山; 2002)。

実際の手順は、「自己像の描画 (イメージとしての自分)」→「気になるものの描画 (自分と関連ある人や物、あるいは出来事を描く)」→「背景の描画 (自分が置かれている心理的環境)」→「隠れているものの描画」→「題名をつける」→「物語をつくる」という6つの過程を順次辿っていく。

本研究における自分描画法の結果から、次のことがわかった。

- ① 心理的には、家族から孤立していることに耐えられなくなくなり、とりわけ両親にどのように接近していくかに悩んでいた。
- ② 面接を深める中で、徐々に家族に接近できるようになっていった。
- ③ 家族との関係修復作業はイメージの変化だけでなく、現実行動を伴うようになった。
- ④ ようやく裸の付き合いをしてもよいくらいの気持ちになってきたが、まだ十分に話せないでいる。

この心理的変容は自然であり、了解できる。

### 2. 実施した心理査定結果との対応

これについては次のようなことが指摘できる。

- ① 面接当初は多彩な病気があるのに身体に対する気づきが浅く、心理的困惑感が前景に出現していた。
- ② 査定は質問に対して応えるという特性を有するものが多かったことから、無意識的な抵抗が働き、「私は大丈夫です」とのメッセージが得られたものと考えられる。

③ 従って、査定結果の信憑性については、面接内容と自分描画法およびバウムテスト結果を重ね合わせ、総合的に判断することが望ましいと考えられた。

④ Mにとって自分描画法とバウムテストはよく馴染み、「ぴったり感」が得られたようだ。

### 3. 心理的回復過程

心理療法過程からMの心理的回復をみると、次のように展開したものと考えられる。小山(2002)の思いの深まり、つまり思いに「苦しむ→ふれる→つかむ→収める」の4過程でみると、面接は次のようにまとめることができるだろう。

① 「思いに苦しむ」プロセスは、1回目から4回目までで、この間Mは「親子関係の断絶」「暴力的な父親から受けたトラウマ」「幼少時から家から出された悔しさ」「窓から投げ落とされたショック」「両親の面倒を見たくないという思い」等に苦しんでいることがわかる。

② 「思いにふれる」プロセスは4回目あたりから11回目までと考えられる。この間、Mは「両親の世話（をする）」「コミュニケーション（を良くしたい）」「愛情（が欲しい）」「女性（イメージの中で会う）」「アホで間抜けな自分」「両親や姉の心」「自分は小心者」「両親の誕生日にプレゼントを贈る」「両親や姉を怖くないと思える心」「自己主張」「町内会の同輩」等にふれた。

③ 「思いをつかむ」プロセスは自分描画法を実施した11回目あたりから14回目くらいだと考えられる。つかむ対象は「身体の病気」「老いた両親」「親兄弟」等である。

ところでMはまだ「思いを収める」ところまでは辿りついていない。最終面接時、「母親は特養に入るのか」とつぶやいた。徐々に弱る母親を息子という眼差しで見ることができるようになってきているようだ。自分自身も「人から嫌われてもそうですかと言える場所」に収めようとしている。現実には彩られてはいても、思いの世界はまだ白黒だという。彩色はこれからの体験如何なのだろう。本症例が伝えたことはたくさんあるが、まとめる次のようになる。

① 多彩な病気の背景に心理的な要因がある場合、心理的な訴えが前景に現れると同時に身体に対する感受性が鈍り始める（身体を自ら傷つける人）。Mはこの特徴を有していた。

② 不安感が高いのに、心理査定では不安得点が低いなど、心理査定結果と実際の様子が違う場合、どのような査定道具が患者の心理をよく反映する

のか、道具の選択に意を尽くさなければならない。つまり患者に合った心理査定を選ばなければならない。Mには自分描画法とバウムテストがよく適合していたように思われる。

③ 人の心の世界では、「一步踏み出す」ということがどれほど大変なことを患者と向き合う人は知らねばならない。本症例より、成人した人が親との信頼感を樹立させるは容易いことではないことがわかる。

### おわりに

症例研究のねらいは、研究ということで削ぎ落としたものを拾い集め、再構成し、生命感を復活させる作業とも言える。患者と治療者間の人間関係が心身に対して影響を及ぼすこともあるだろう。何が要因となって何が結果として産み落とされたのか、よくわからないこともある。しかし症例を積み重ねることによって、症例研究から得たものがエビデンスとなり、やがて共通理解となり結実する可能性がある。症例を積み重ねていく作業は地道ではあるが臨床の本道だと筆者は感じている。

### 謝 辞

研究遂行にご理解いただきましたMさんには、心から感謝申し上げます。また医療—臨床心理間連携を含めてご援助いただきました北海道医師会理事の橋本洋一先生、および本誌投稿の機会をいただきました名寄市立大学学長、久保田宏先生には厚くお礼申し上げます。

#### 文 献

- 小山充道：思いの理論と対話療法 誠信書房：2002  
小山充道：自分描画法研究—心理療法における自己像 信州大学教育学部紀要 115:155-166,2005.  
小山充道：自分描画法（小山充道編著 必携臨床心理アセスメント）金剛出版：374-378,2008.  
内富庸介・藤森麻衣子：がん医療におけるコミュニケーション・スキル 医学書院 2007  
内富庸介・藤森麻衣子：悪い知らせをどう伝えるか（週刊医学界新聞 第2759号）医学書院 2007  
First, M. B., Spitzer, R. L., Gibbon, M. & Williams, J. B.W. : Structured Clinical Interview for DSM-IV Axis I Disorders. 1997 [高橋三郎監修, 北村俊則・岡野禎治監訳, 富田拓郎・菊池安希子共訳：精神科診断面接マニュアルSCID：使用の手引き・テスト用紙 日本評論社：2003  
付記：本研究は平成17年度文部科学省科学研究費補助金（萌芽研究）『“自己描画法”に関する臨床発達基礎研究—描画の収集と質的分析』（課題番号16653060）の一環として実施された。